

## 博士論文審査要旨

### 論文審査担当者

主査	明星大学	准教授	竹内 康二
委員	明星大学	教授	小美野 喬
委員	明星大学	教授	島田 博祐
委員	立教大学	教授	大石 幸二

申請者氏名 榎本 拓哉

論文題目 ビデオモデリングおよびビデオフィードバックを用いた自閉性スペクトラム障害児への行動支援

(論文審査の結果の内容)

### 研究構成

本研究論文は総論と実践的研究の二部により構成されている。総論では本研究のテーマに直接関連する領域の研究小史をまとめ、行動分析学を理論的枠組みとした研究の必要性を指摘している。実践的研究では著者自身によって計画・実践された研究をもとに、研究1～5までを詳細にまとめている。研究1は障害児に複雑な行動連鎖を教える際のビデオモデリングの有効性について、研究2～4は様々な属性の障害児が示す問題行動改善に対するビデオフィードバックの有効性について（研究2は重度知的障害児、研究3は知的障害のない子ども、研究4は両者が混在した集団を対象としている）、研究5はその両者の手続きが障害児支援を行うスタッフのトレーニングに与える有効性について実証した。総合考察では、研究結果を踏まえて、ビデオを用いた方法が行動の改善につながるメカニズムを行動分析学の枠組みから無理なく説明することができた。ただし、その説明は微視的なものに偏っていて、より巨視的な心理学研究の中に自身の研究を位置づける考察（様々な説明可能性があるなかで行動分析学的説明をすることの優位性の主張）がやや不足していた。

## 評価できる点

本研究の価値、独自性は、臨床的効果の報告が中心であったビデオモデリングおよびビデオフィードバックによる従来の支援研究と異なり、行動変容の内容を三項随伴性、行動連鎖の機序をもとに詳細に分析検討し、モデル提示を行った点にある。また、他者の行動モデルではなく、自身の行動モデルを映像資料化し、それをモデリングおよびフィードバックの素材とするというアイデアや、そのような実験素材の作成、および行動変容に及ぼす効果の実証は、今後の障害児領域の研究に対して大きな影響を及ぼす可能性がある。一方、臨床的研究の価値としては、ビデオフィードバック、ビデオモデリング、プロンプトを含めた手続きをパッケージプログラムとして示すことで、教育・臨床現場での汎用可能性を示唆できており、この点でも高い評価ができる。この手法が支援の必要度の高い事例（例えば、声かけによる繰り返しの指導が効果を持たない事例）に対して、一定の臨床的有効性をもつという点も大いに評価できる。

## 課題であった点

実験の条件統制に不十分さがあることを否めない。他者行動モデルと自己行動モデルの直接比較検討は行われておらず、単一事例デザインの適用も十分な形では行われていない。維持・般化と社会的妥当性、あるいは系統的リプリケーションについても課題を残している。しかし、限られた期間の中でデータ収集が難しい障害臨床領域で果敢にチャレンジした申請者の努力は高く評価できる。

以上により、本研究は博士（心理学）の学位を授与するに十分価値あるものと認める。

## （試験および試問の結果の要旨）

口頭試問においては、主に以下の点について論文審査担当者から質問があった。  
①ビデオ提示による行動変容だけでなく、ビデオ内容そのもの（ビデオに映っている行動とその先行事象および結果事象）に対する三項随伴性に基づいた分析の必要性。  
②ビデオ内容が行動変容に大きく影響した場合に、当該行動をルール制御行動として分析する視点および観察学習の結果として分析する視点の必要性。  
③独立変数としてのビデオモデリングやビデオフィードバックの影響を厳密に同定するために反転法を用いることの必要性。  
④独立変数の構成要素を系統的に操作することの必要性。  
⑤行動分析学的枠組みに基づいた仮説の実証であることの明示とその枠組みを広い意味での心理学研究に位置づける説明の必要性。

こうした質問に対する申請者の回答は的確かつ丁寧なもので、論文審査担当者の質問内容や質問意図を十分に理解して本研究の課題を整理できていることが伺えた。また、今後の課題として上記の必要性について発展的に検討し、追加の実験を行っていく予定であるとの回答もあった。

上述の論文審査と口頭試問の結果を慎重に審査した結果、合格と判定した。